

サンドボックスのリフレッシュを考慮した推奨設定

Ex Librisでは、認証プロファイルを含むAlmaのすべての生産データをサンドボックスへコピーすることでプレミアムサンドボックスを更新します。サンドボックスが運用サーバー上のプロファイルとは異なる認証プロファイルが必要とする場合、更新によりサンドボックスへの認証が中断される可能性があります。

このガイドでは、すべての機関が運用サーバーで実行し、更新のたびにサンドボックスで小さな設定タスクを実行する必要がないようにするための認証プロファイルについて、1回限りの手順を表示します。これらの1回限りの手順を実行すると、追加設定なしで、または最小限の設定で、更新ごとにサンドボックスでの認証がシームレスに機能し続けます。

さらにサポートが必要な場合は、[Ex Librisのお客様サポートへご連絡ください](#)。

LDAPを使用しているお客?の場合：

詳細については、[LDAPをサポートする](#)を参照してください。

Ex Librisは、運用サーバーとサンドボックスの両方について同じLDAPプロファイルを使用することをお勧めします。この場合、更新後にサンドボックスでLDAPを追加設定する必要はありません。

SAMLまたはCASを使用しているお客?の場合：

詳細については、[SAML ベースのシングルサインオン/サインオフ](#) と [CAS ベースのシングルサインオン/サインオフ](#) を参照してください。

運用サーバーとサンドボックスが同じSAML IDプロバイダーまたはCASサービスを使用する場合、Ex Librisは両方の環境で同じ認証プロファイルを使用することをお勧めします。この場合、更新後にサンドボックスでSAMLまたはCASを追加設定する必要はありません。

SAML IDプロバイダー側でサンドボックス用に別のSAML証明書利用者信頼を作成する必要があります。また、サンドボックスがCASサービスを使用することを許可する必要があります。

運用サーバーとサンドボックスが異なるSAML IDプロバイダーまたはCASサービスを使用している場合、サンドボックス認証プロファイルをデフォルト以外のプロファイルとして運用サーバーにコピーします。

更新後、次のいずれかのURLでSAMLまたはCASを使用してサンドボックスにログインできます：

- SAML: `https://<Almaサンドボックスドメイン>/institution/ /{INST_CODE}SAML/idpCode/{sandbox SAML integration profile code}`
- CAS: `https://<Almadomain>/institution/{INST_CODE}/CAS/idpCode/{sandbox CAS integration profile code}`

ソーシャルログインを利用しているお客?の場合：

詳細については、[ソーシャルとEメールのログイン](#)を参照してください。

Ex Librisは、サンドボックスと運用サーバーの両方について同じソーシャル認証プロファイルをご使用されることをお勧めします。この場合、更新後、サンドボックスでソーシャルログインの追加設定は必要ありません。

Primoユーザーのお客?の場合：

PrimoサンドボックスがAlmaの運用サーバーと連携するように設定されている場合、更新後にサンドボックスでPrimoサンドボックスを追加設定する必要はありません。

PrimoサンドボックスがAlmaサンドボックスと連携するように設定されている場合：

1. Alma運用とプレミアムの双方のサンドボックスサーバーで、**primo_test_pds_url** の値を次のようにアップデートします（[その他の設定](#)参照）：
PDSプロファイルの場合：`https://<pds_server>/pds?`
PDSプロファイル以外の場合：`https://<PrimoSandbox Base>/primo_library/libweb/webservices/rest/PDSUserInfo?`
2. Primoでテンプレートマッピングテーブルのための指示に従い（[納品サブシステム](#)参照）、**env_type**を設定します。

Primo VEユーザーのお客?の場合：

プレミアムサンドボックスと運用環境で異なるPCキーを使用している場合、プレミアムサンドボックスの更新後に、サンドボックスPCキーを追加する必要があります。